

令和5年度 全国学力・学習状況調査 鴻巣市の結果の概要【中学校】

1 鴻巣市と埼玉県・全国との正答率比較

	国語	数学	英語
鴻巣市	71	53	46
埼玉県	71	52	46
全国	69.8	51.0	45.6

2 中学校各教科の領域・区分等について

国語	「話すこと・聞くこと」は、全国・県平均を上回っています。 「書くこと」は、全国平均を上回り、県平均を下回っています。 「読むこと」は、全国・県平均を上回っています。 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均を上回り、県平均を下回っています。 「情報の扱い方に関する事項」は、全国・県平均を上回っています。 「我が国の言語文化に関する事項」は、全国・県平均を上回っています。
数学	「数と式」は、全国・県平均を下回っています。 「図形」は、全国・県平均を上回っています。 「関数」は、全国・県平均を上回っています。 「データの活用」は、全国・県平均を上回っています。
英語	「聞くこと」は、全国・県平均を上回っています。 「読むこと」は、全国・県平均を上回っています。 「話すこと」は、全国平均を上回っています。 「書くこと」は、全国・県平均を下回っています。

※「話すこと」については県の情報なし

3 質問紙調査から（一部抜粋）当てはまる・どちらかといえば当てはまるを選んだ生徒の割合

質問事項	鴻巣市	埼玉県	(差)	全国	(差)
学校に行くのは楽しいと思いますか	85.8	84.5	+1.3	82.9	+2.9
将来の夢や目標を持っていますか	67.7	68.9	-1.2	67.3	+0.4
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む)	61.7	60.3	+1.4	58.5	+3.2
1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	74.7	77.9	-3.2	75.3	-0.6
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	79.8	82.5	-2.7	78.7	+1.1
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	79.7	78.7	+1.0	76.9	+2.8
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	40.2	40.8	-0.6	40.7	-0.5
国語の勉強は大切だと思いますか	93.3	94.0	-0.7	93.2	+0.1
数学の勉強は大切だと思いますか	87.5	86.3	+1.2	86.6	+0.9
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	88.4	88.5	-0.1	85.5	+2.9

4 学習指導改善のための今後の方策

各学校の実情に応じて、以下の取組を推進してまいります。

【鴻巣市学習指導の重点】

- 適切な課題を設定し、児童生徒が見通しをもって学習するとともに、学んだことを自分の言葉で表現するなど、一人一人が学習の成果を振り返ることができる授業を展開していきます。
- 学習課題について一人一人が考える時間を十分に確保し、自分の考えをもって他者と交流することで、考えを深めていくことができる授業を展開していきます。
- 学んだことが確実に定着するよう、授業の中でまとめの練習問題に取り組むとともに、新たな課題を見付けたり、日常生活に活用したりできる授業を展開していきます。

【各教科における指導方法の改善】＜国語＞

○〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕

＜重点：語句の量を増し、語句についての理解を深める＞

- ・語感を磨き、語彙を豊かにするためには、語句の量を増すことと、語句についての理解を深めることの両面が必要です。その際、各学年において指導の重点として示された語句のまとまりを中心としながら、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げ、指導していきます。

○〔情報の扱い方に関する事項〕

＜重点：具体と抽象など情報と情報との関係について理解する＞

- ・具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要です。例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを、身の回りの事例と結び付けながら捉えることができるように指導していきます。

○〔我が国の言語文化に関する事項〕

＜重点：古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える＞

- ・古典に表れたものの見方や考え方を知るためには、作品に描かれている情景や登場人物の心情などが想像できるように指導することが重要です。その際、古典の易しい現代語訳や語注、古典について解説した文章などを手掛かりにして内容を捉えることができるように指導していきます。

○〔話すこと・聞くこと〕

＜重点：話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する＞

- ・話し手に質問する際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要です。その際、目的や状況を意識した上で、質問の意図を伝えたり、適切な機会を捉えたりできるように指導していきます。

○〔書くこと〕

＜重点：読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整える＞

- ・書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導していきます。

○〔読むこと〕

＜重点：観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える＞

- ・説明的な文章において表現の効果について考える際には、文章で述べられている内容を確認した上で、文章のどの部分にどのような表現の工夫が見られるかを捉えることが必要です。その際、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考える場面を設け、指導していきます。

【各教科における指導方法の改善】＜数学＞

○〔数と式〕

＜重点：数の集合を捉え直し、自然数や整数の意味を理解できるようにする＞

- ・数の範囲を正の数と負の数にまで拡張して、数の集合を捉え直す場面を設定し、自然数や整数の意味を理解できるようにすることが大切です。新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を取り入れる等、指導していきます。

○〔図形〕

＜重点：証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察することができるようにする＞

- ・ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根

拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるように指導することが大切です。例えば、証明後に証明を振り返り、条件を変えた場合にも変わらず成り立つ部分と成り立たなくなる部分を図と対応させながら読み取らせる等、指導していきます。

○〔関数〕

＜重点：問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする＞

- ・様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらをどう用いたかについて数学的に説明できるように指導していきます。

○〔データの活用〕

＜重点：四分位範囲の必要性和意味について理解できるようにする＞

- ・複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、四分位範囲の必要性和意味を理解できるように指導することが大切です。その際、四分位範囲は、第3四分位数と第1四分位数の差で求められ、全てのデータのうち中央値を中心とする約半数のデータの散らばりの度合いを表す指標であることを確認させ、理解を深めさせる等、指導していきます。

【各教科における指導方法の改善】＜英語＞

○〔聞くこと〕

＜重点：学習者用デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにする＞

- ・情報を正確に聞き取るためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要です。情報を正確に聞き取るためには、抱えている課題が「知識」の側面なのか、それとも「技能」の側面なのかを把握し、個々の課題に応じた支援をすることが大切です。特に「技能」面の指導にあたっては、一時的ではなく、言語活動を行う際に継続的に指導していきます。

○〔読むこと〕

＜重点：自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取ることができるようにする＞

- ・自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取るためには、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で読み取ることが重要です。言語活動を行うに当たっては、日常的な話題に関して、できるだけ現実に近い場面を設定するとともに、文の一語一語の意味を全て理解する逐語的な読みから脱却し、自分が必要とする情報を読み取ることができるよう指導していきます。

○〔話すこと（やり取り）〕

＜重点：対話を継続・発展させるために、関連する質問をすることができるようにする＞

- ・対話を継続・発展させるためには、相手に聞き返したり確かめたりすることや、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の答えを受けて、自分のことを伝えることだけでなく、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加えることが重要です。言語活動を行うに当たっては、Yes-No 疑問文や or を含む選択疑問文、Wh-疑問文などについて、語順、動詞の形の変化、イントネーションなどを意識するよう指導者が声かけをしながら、指導していきます。

○〔話すこと（発表）〕

＜重点：複数の領域を統合した言語活動の充実を図る＞

- ・授業において複数の領域を統合した言語活動を充実させることが求められています。聞いたことについて話す活動だけでなく、読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、様々な形で複数の領域を統合した学習活動を通して、聞いたり読んだりしたことに対して自分の考えをもち、自らの表現で話すことができるように指導していきます。

○〔書くこと〕

＜重点：場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書くことができるようにする＞

- ・場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切です。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高めていく学習活動を取り入れる等、指導していきます。